

私のふるさとの話を
聞いてください



いしき を 学ぶ会 ⑥

ダム問題に直面してきた県内2つの地域から、ゲストを招いてお話を聞く会です。

上映

映画「ほたるの川のまもりびと」（20分版）

第1部

川原（こうばる）地区のおはなし

第2部

雪浦（ゆきのうら）地区のおはなし

2019年3月2日（土）

開場 13：00 開始 14：00 （16：10終了予定）

長崎市民会館大会議室

長崎市魚の町5-1 (095-825-1400)

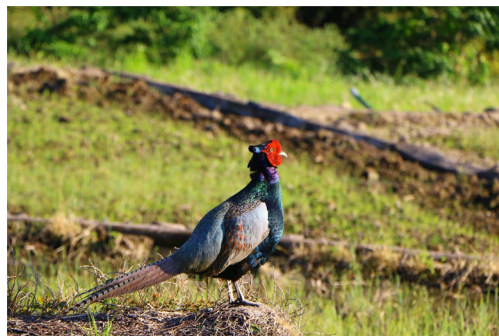
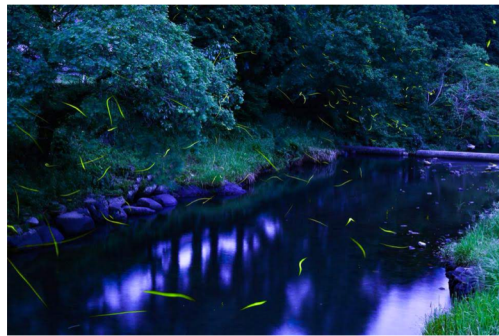
参加費 500円（資料代として）

主催・問合せ いしきを学ぶ会実行委員会 095-884-1007（森下）

第一部

川原(こうばる)地区のおはなし

東彼杵郡川棚町を流れる石木川は、たくさんの生きもののたちのふるさとです。人間も、代々受け継いだ田んぼを守り、家族みんなで助け合って生活してきました。初夏になるとホタルが飛び交う中流域の川原地区には、50年以上前から、長崎県と佐世保市が石木ダムを建設しようとしています。人々は「ふるさとを手放すことはしない」と決めています。そして、今日までダムは造られていません。ここでの暮らしはどうやってずっと続けられてきたのでしょうか。



第二部

雪浦(ゆきのうら)地区のおはなし

西海市南部の雪浦地区は、雪浦川の最下流域にあたります。上流には1977年に完成した雪浦ダムがあり、西海市と長崎市へ飲み水を供給しています。ここでも人々は、山・川・海の豊かな自然に囲まれて暮らしてきました。ただ、1980年代に入り、「雪浦第2ダム」と銘打って、また別のダムの建設が計画された時、人々がそれを受け入れることはありませんでした。なぜでしょうか。なお、結局この計画は取りやめられ、新しいダムは造られませんでした。